

健やか親子21推進協議会参加団体の取組実績の調査について

1. 調査方法

プロセス（どう取り組んでいるか）とアウトプット（取組の事業量）の2本立てで調査

- (1) プロセス：当該団体が第1回中間評価以降（平成18年）の4年間「健やか親子21」に関してどのように取り組んできたかを振り返り、今後5年の具体的な目標を示していただく。
- (2) アウトプット：当該団体の「健やか親子21」に関する活動を数量的に調査し、実績としてまとめる。
 - <数量で表せる実績>
リーフレット類の配布、相談事業等の回数、大会・イベント回数
研修会・講習会回数、委員会・協議会開催回数、学会開催回数 等
 - <数量以外の実績>
調査研究事業等、ガイドライン・手引き・マニュアル等の作成
政策への提言等

2. 調査手順

(1) プロセス

- 推進協議会加入後1年以上経過したすべての団体に依頼
- プロセスチェックリストの第1回中間評価以降（平成18年から平成21年現在まで）を振り返って記載
- 過去4年（平成18年から平成21年まで）の取組における手応えや推進の難しさ、これからの推進方法への課題等自由記載を付加

(2) アウトプット

- すべての団体に依頼
- 事業実績シートの第1回中間評価以降（平成18年から平成21年現在まで）の4年分を記載
- 第1回中間評価の取組と比較して、良い点、悪い点についての自由記載を付加

(3) 調査期間

平成21年8月～9月予定

3. 留意点

団体への負担は軽く、効果は大きくなるような方法、手順で実施

健やか親子21推進協議会参加団体の取組実績の調査について

(調査票案)

プロセス（どう取り組んでいるか）とアウトプット（事業量）の2本立てで調査を実施。

調査の概要

1. 調査目的

「健やか親子21」の中間評価・見直しにあたり、健やか親子21推進協議会参加団体における第1回中間評価以降（平成18年）の取組のプロセスを振り返ることにより、今後5年間の取組の方向性を明確にする。

また、各団体の取組実績を調査することにより、課題に対する専門団体・民間団体としての取組を集積し、その貢献を社会にアピールする。

2. 調査方法

全ての団体を対象にした「調査票による調査」（別紙1～3）と、抽出された団体及び希望のあった団体を対象にした「インタビュー調査」を行います。

(1) 調査票による調査

この調査は、推進協議会加入後1年以上経過した全ての団体が対象です。

○「健やか親子21」推進のためのプロセスチェックリスト（別紙1）

貴団体が第1回中間評価以降（平成18年）からこれまでの4年間において「健やか親子21」に関してどのように取り組んできたかを振り返るチェックリストです。

回答はそれぞれ「はい・いいえ」または「1できない～5よくできた」の5段階のうちあてはまる番号に○をつけて下さい。

また、今後5年間の具体的な目標について記入してください。

○「健やか親子21」事業実績シート（主催）（別紙2）

貴団体が主催した（共催は別紙3に記入）「健やか親子21」に関する活動実績を調査するシートです。

第1回中間評価以降（平成18年から平成21年現在まで）の状況を記入してください。1～6の実績については、計上する期間を明記して下さい。7～9については「健やか親子21」の第1回中間評価以降の全ての実績を記入してください。

(記入上の留意点)

- 1→リーフレット、パンフレット類は、「健やか親子21」運動の趣旨が記載されている、又はシンボルマークを使用しているものに限って計上してください。
- 2～6→「健やか親子21」の趣旨に沿って展開されている事業や大会等について計上してください。
- 7～9→「健やか親子21」に関連すると判断されるものについて、幅広く記入してください。

○「健やか親子21」事業実績シート（連携）（別紙3）

貴団体が他団体と連携（共催）して実施した「健やか親子21」に関する活動実績を調査するシートです。

記入要領は、別紙2と同様です。

(2) インタビュー調査

今回の調査に際し、紙面ではくみ取れない実績を具体的に調査するために、取組が充実している団体やご希望の団体に対し、インタビュー調査を実施いたします。

インタビューは、基本的に(1)の調査票に沿った内容で行いますが、お話を伺うと同時に、今後の計画策定や他団体との連携についても支援したいと考えております。

対象となる団体には、事務局から連絡を差し上げます。インタビューのご希望がございましたら、事務局まで電子メール又はファックスでお知らせください。

3. 調査期間について

(1) 調査票の提出期限

平成21年※月※日

(2) インタビュー調査実施期間

平成21年※月～※月中旬目途

対象団体と事務局の間で調整

4. 事務局

厚生労働省 雇用均等・児童家庭局 母子保健課
健やか親子21推進協議会事務局（担当：山口）

E-mail yamaguchi-michiko@mhlw.go.jp

FAX 03-3595-2680

(別紙1)

「健やか親子21」推進のためのプロセスチェックリスト

団体名 ()

◆次の項目について、「はい・いいえ」又は「1できない～5よくできた」の5段階のうちあてはまる番号に○をつけて下さい。(第1回中間評価以降(平成18年)から現在まで)

項 目	はい 1できない～5よくできた	いいえ
1. 担当者を決めましたか。	はい	いいえ
2. 「健やか親子21」の推進について活発に検討や議論を行いましたか。	1	2 3 4 5
3. 年次計画の中に「健やか親子21」関連の事業を盛り込みましたか。	はい	いいえ
4. 取り組む課題を明確にしましたか。	1	2 3 4 5
5. 課題を達成させるための方策(事業)を明確にしましたか。	1	2 3 4 5
6. アウトカム指標(成果)の目標値を設定しましたか。	はい	いいえ
7. アウトプット指標(事業量)の目標値を設定しましたか。	はい	いいえ
8. 6および7の指標についてのモニタリング(データを集める)システムはありますか。	1	2 3 4 5
9. 定期的に取り組の評価を行いましたか。	1	2 3 4 5
10. 「健やか親子21」事業関連の予算を計上しましたか。	はい	いいえ
11. 「健やか親子21」関連の研究事業などに参加しましたか。	1	2 3 4 5
12. 他の機関や団体との連携を図りましたか。	1	2 3 4 5
13. 自分の団体のホームページなどに取り組みを公表しましたか。	はい	いいえ
14. 健やか親子21公式ホームページに情報を提供しましたか。	はい	いいえ

○今後5年間の具体的目標

(追加案)

※上記1～14について、平成18年から平成20年までの取組における手応えや困難、課題等

※今後5年間の「健やか親子21」推進の方策等

(別紙2)

「健やか親子21」事業実績シート(主催)

団体名()

これは貴団体が主催した「健やか親子21」に関する活動実績を調査するシートです。

(第1回中間評価以降(平成18年)から現在まで)

◆1～6は計上する期間を明記し、名称、対象者、部数・件数・回数・人数を書いて下さい。

1. リーフレット、パンフレット類の種類と配布数 平成()～()年分	対象者	部
2. 相談事業(電話相談など)の種類と延べ件数 平成()～()年分		件
3. 大会などのイベントの開催回数と延べ参加者数 平成()～()年分	回	人
4. 研修会・講習会の開催回数と延べ参加者数 平成()～()年分	回	人
5. 委員会・協議会などの会議開催回数と延べ参加者数 平成()～()年分	回	人
6. 学会・研究会・発表会など開催回数と延べ参加者数 平成()～()年分	回	人

◆7～9は貴団体が「健やか親子21」第1回中間評価以降(平成18年～)現在までの状況の実績を記入して下さい。

7. 調査研究事業		
8. ガイドライン、手引き、マニュアル等の作成	対象者	
9. 提言や要望書の提出など健康政策への関与	提出先	

(追加案)

◆1～9に関して、第1回中間評価時に比べて良かったこと、悪かったこと 等

--

「健やか親子21」事業実績シート(連携)

団体名()

これは貴団体が他団体と連携(共催)して実施した「健やか親子21」に関する活動実績を調査するシートです。

(第1回中間評価以降(平成18年)から現在まで)

◆1～6は計上する期間を明記し、名称、対象者、部数・件数・回数・人数を書いて下さい。

1. リーフレット、パンフレット類の種類と配布数 平成()～()年分	対象者	部
2. 相談事業(電話相談など)の種類と延べ件数 平成()～()年分		件
3. 大会などのイベントの開催回数と延べ参加者数 平成()～()年分	回	人
4. 研修会・講習会の開催回数と延べ参加者数 平成()～()年分	回	人
5. 委員会・協議会などの会議開催回数と延べ参加者数 平成()～()年分	回	人
6. 学会・研究会・発表会など開催回数と延べ参加者数 平成()～()年分	回	人

◆7～9は貴団体が「健やか親子21」第1回中間評価以降(平成18年～)現在までの状況の実績を記入して下さい。

7. 調査研究事業	
8. ガイドライン、手引き、マニュアル等の作成	対象者
9. 提言や要望書の提出など健康政策への関与	提出先

(追加案)

◆1～9に関して、第1回中間評価時に比べて良かったこと、悪かったこと 等

--

第1回「健やか親子21」の評価等に関する検討会 議事要旨

1. 日時:2009年3月25日(水) 9:30~11:30
2. 場所:航空会館 701・702 会議室
3. 出席者:柳澤座長、井上委員、今村委員、衛藤委員、岡本委員、奥山委員
桑原委員、斎藤委員、迫 委員、高山委員、田中委員、三上委員
森田委員、山縣委員、渡辺委員
厚生労働省
村木雇用均等・児童家庭局長、北村審議官、高倉総務課長、宮崎母子保健課長
朝川少子化対策室長、杉上虐待防止対策室長、小林課長補佐、今村課長補佐
大内指導課専門官、山本生活習慣病対策室長補佐
4. 新たな取組に関する主な発言
 - 妊婦健診の回数を入れてみてはどうか。最終評価で、公費負担の効果を判定できるのではないか。
 - 目標値が「増加傾向へ」「半減」等、表現が曖昧。第1回中間評価のデータと今回のデータの動きから、平成26年における目標は、ある程度数値化できるのではないか。
 - 母子保健の指標というのは社会経済状況と密接に関連している。社会経済状況のバックグラウンドがきちんと押さえられているような調査の必要があるのではないか。
 - 妊娠、出産の快適性においては、院内助産システムの推進が出てきており、新たな指標も必要ではないか。
 - 十代の自殺率といった課題は、(ベースラインと中間評価の)二次点の数値の比較ではなく、長期的な動態を見ないといけないのではないか。
 - 少数の虫歯のある子どもが比較的重症な部分が多く、育児困難、ネグレクトと関連などが考えられており、その辺の重症う蝕に対する対応が必要。
 - 女性の歯科の指標は年齢を増す毎に悪くなっており、思春期の口腔衛生に対する関心の低下、妊娠・出産、更年期の問題がある。
 - 幼児期の子どもの身体面(体力の低下など)を見ておく必要があるのではないか。
 - 都道府県や指定行政都市では、児童憲章に伴う条例がほとんどないため、「健やか親子21」の中のベースとして考えていただきたい。
 - 朝食の欠食が大きな問題になっていくだろうと思う。親世代の欠食率が非常に高く、1歳から6歳までの子どもの欠食もまだ5~7%近くあるのではないかと指摘されているところであり、徹底的な活動が必要ではないか。

「健やか親子21」における取組の目標

資料5 ②

課題1 思春期の保健対策の強化と健康教育の推進

- 1-1 十代の自殺率
- 1-2 十代の人工妊娠中絶実施率
- 1-3 十代の性感染症罹患率
- 1-4 15歳の女性の思春期やせ症（神経性食欲不振症）の発生頻度
- 1-5 児童・生徒における肥満児の割合
- 1-6 薬物乱用の有害性について正確に知っている小・中・高校生の割合
- 1-7 十代の喫煙率（※「健康日本21」4. 2未成年者の喫煙をなくす）
- 1-8 十代の飲酒率（※「健康日本21」5. 2未成年者の飲酒をなくす）
- 1-9 性行動による性感染症等の身体的影響等について知識のある高校生の割合
- 1-10 学校保健委員会を開催している学校の割合
- 1-11 外部機関と連携した薬物乱用防止教育等を実施している中学校、高校の割合
- 1-12 スクール・カウンセラーを配置している中学校（一定の規模以上）の割合
- 1-13 思春期外来（精神保健福祉センターの窓口を含む）の数
- 1-14 思春期保健対策に取り組んでいる地方公共団体の割合
- 1-15 食育の取組を推進している地方公共団体の割合（4-14再掲）

課題2 妊娠出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援

- 2-1 妊産婦死亡率
- 2-2 妊娠・出産について満足している者の割合
- 2-3 産後うつ病の発生率
- 2-4 妊娠11週以下での妊娠の届け出率
- 2-5 母性健康管理指導事項連絡カードを知っている就労している妊婦の割合
- 2-6 周産期医療ネットワークの整備
- 2-7 正常分娩緊急時対応のためのガイドラインの作成
- 2-8 産婦人科医・助産師数①
- 2-9 不妊専門相談センターの整備
- 2-10 不妊治療を受ける際に、患者が専門家によるカウンセリングが受けられる割合
- 2-11 不妊治療における生殖補助医療技術の適応に関するガイドラインの作成
- 2-12 出産後1か月時の母乳育児の割合（4-9再掲）

課題3 小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備

- 3-1 周産期死亡率
- 3-2 全出生数中の極低出生体重児の割合・全出生数中の低出生体重児の割合
- 3-3 新生児死亡率・乳児（1歳未満）死亡率
- 3-4 乳児のSIDS死亡率
- 3-5 幼児（1～4歳）死亡率
- 3-6 不慮の事故死亡率
- 3-7 う歯のない3歳児の割合
- 3-8 妊娠中の喫煙率、育児期間中の両親の自宅での喫煙率
- 3-9 妊娠中の飲酒率
- 3-10 かかりつけの小児科医を持つ親の割合
- 3-11 休日・夜間の小児救急医療機関を知っている親の割合
- 3-12 事故防止対策を実施している家庭の割合
- 3-13 乳幼児がいる家庭で風呂場のドアを乳幼児が自分で開けることができないよう工夫した家庭の割合
- 3-14 心肺蘇生法を知っている親の割合
- 3-15 乳児期にうつぶせ寝をさせている親の割合
- 3-16 6か月までにBCG接種を終了している者の割合
- 3-17 1歳6か月までに三種混合・麻しんの予防接種を終了している者の割合
- 3-18 初期、二次、三次の小児救急医療体制が整備されている都道府県の割合
- 3-19 事故防止対策を実施している市町村の割合
- 3-20 小児人口に対する小児科医・新生児科医・児童精神科医師の割合
- 3-21 院内学級・遊戯室を持つ小児病棟の割合
- 3-22 慢性疾患児等の在宅医療の支援体制が整備されている市町村の割合

課題4 子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減

- 4-1 虐待による死亡数
- 4-2 法に基づき児童相談所等に報告があった被虐待児数
- 4-3 子育てに自信が持てない母親の割合
- 4-4 子どもを虐待していると思う親の割合
- 4-5 ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合
- 4-6 育児について相談相手のいる母親の割合
- 4-7 育児に参加する父親の割合
- 4-8 子どもと一緒に遊ぶ父親の割合
- 4-9 出産後1か月時の母乳育児の割合（2-12再掲）
- 4-10 周産期医療施設から退院したハイリスク児へのフォロー体制が確立している保健所の割合
- 4-11 乳幼児の健康診査に満足している者の割合
- 4-12 育児支援に重点をおいた乳幼児健康診査を行っている自治体の割合
- 4-13 乳児健診未受診児など生後4か月までに全乳児の状況把握に取り組んでいる市町村の割合
- 4-14 食育の取組を推進している地方公共団体の割合（1-15再掲）
- 4-15 子ども心の専門的な診療ができる医師がいる児童相談所の割合
- 4-16 情緒障害児短期治療施設数
- 4-17 育児不安・虐待親のグループの活動の支援を実施している保健所の割合
- 4-18 親子の心の問題に対応できる技術を持った小児科医の数